

パネルディスカッション

「新市庁舎とまちづくりについて」

〔コーディネーター〕 ^{いかるが} 鷗 心治(山口大学大学院教授)

〔コメンテーター〕 中井 検裕 (東京工業大学教授)、 中出 文平 (長岡技術科学大学副学長)

〔パネリスト〕 青木 淑子(防府市PTA連合会幹事)、 喜多村 誠(防府商工会議所会頭)

山野悦子(NPO 法人市民活動さぽーとねっと理事)、 松浦 正人(防府市長)

テーマ1 建設候補地の選定について

テーマ2 防府生活都心の創造とそのイメージ

テーマ3 事業計画 (A案・B案・B'案)

テーマ1：建設候補地の選定について

○鷗教授

みなさんこんにちは。本日はどうぞよろしくお願いいたします。山口大学の鷗でございます。

私は、防府市庁舎建設基本構想・基本計画検討委員会の委員長を仰せつかっております。この委員会は、平成27年8月から今日まで、合計8回開催しております。新しい庁舎の基本理念や整備方針等を検討してきたところでございます。

中でも、庁舎の建設用地の選定につきましては、委員会として、また、委員の皆さんにとって非常に重い案件でございました。今日のディスカッションでもその辺りがひとつのテーマになろうかと思っております。時間が限られておりますので早速議論を始めたいと思います。

まず、この委員会にご参加いただきました喜多村さんから、用地の選定に際してどのようなお考えであったか、また、まちづくりに向けた思いなどについてご意見をいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○喜多村氏

私は、懇話会の段階から参加させていただきまして、検討委員会の方も参加させていただきまして。私は、商工会議所という立場で委員に選ばれたので、そういった立場からもいろいろな意見を申し上げました。

まずは、駅北の方に選定されたということで正直ほっとしたところでございます。ご存知のように防府のまちづくりを振り返ってみますと、防府駅周辺の連続立体交差事業と鉄道高架、それから駅南、そして駅北の区画整理、駅北の再開発と、いろいろな開発が先人の手によって行われたわけですが、そういった中で取り残されたのが、駅通りの北側で、まちづくりでややもすると

取り残されたという感覚があります。

私ども商工会議所では、駅北の開発、言い換えると中心市街地を活性化するためにさまざまな検討委員会等も開いて、あるいは勉強もしてまいりました。一昨年の秋には、南北をつなぐ道路をつくることによって容積率のアップ、そして高層住宅、マンション等の建設などに弾みがつき駅北地区が更に開発されていくのではないかと考えました。そして中心市街地の活性化協議会の設立に向けて準備し、昨年の8月に中心市街地活性化協議会というものも発足をすることができました。

従いまして、私どもとすれば、今後の長い目で見た防府のまちづくりを考えたときに、折りしも市庁舎を建替える、その場所を選定するということであれば、これは中心市街地の発展のためにもひとつの大きなインパクトになるだろうと思いましたので、冒頭に申しましたようにほっとしたというのが正直な感想であります。

○鷗教授

新庁舎の建設を契機とした長い目で見た中心部のまちづくりの取組の必要性であるとか、鉄道高架事業をはじめとした先人達の遺したのものや、そういった事業との整合性などの重要性が委員会の中でも議論されたし、ご本人の意見としてもそういったことが考えられるのではないかとというようなご意見だと思います。

それでは、続いて同じく委員会で議論していただきました山野さん、いかがでしょうか。

○山野氏

私も喜多村さんと一緒に、懇話会から参加させていただいております、大変貴重な経験をさせていただいているなどと思っております。日頃はNPOや市民活動団体の活動のサポートをさせていただいております。委員会ではいろいろな議論がありましたが、防災、駐車場、事業費については、用地選定の大きなポイントだと今でも思っております。

先ほど、中井教授や中出教授のお話をお聞きしながら、市民参画の手法であるワークショップを用いてという議論の仕方もあったなど感じました。最初に松浦市長もお話しされましたが、現在の庁舎は耐震性が不足しているということで、地震が起こると倒壊または崩壊する可能性があります。熊本の地震でもそういう庁舎が被害にあったということで、私は一番先に優先されるのは利用する市民や市役所で働かれている市長、議員の皆さん、何百人にもなる職員の方の命だと考え、安心・安全な庁舎の建替えが先決だと思います。また、同時に防災拠点性能の早期確保のためには、整備期間は短い方が良いと思いました。

また、「駅北公有地エリア」ですと、市民アンケートの結果にもありました

ように、駐車場の確保など市民の利便性についての問題が出てくるのではないかと考えました。事業費も単純に見て大きかったという点もありました。

こうした点について、委員会としてどのように考え方を整理し、どの程度の重要度をもって評価すべきか、これが一番難しかったことだと今でも思っております。ただ、耐震性に問題があるといいますが、幸いにも防府というまちには地震の少ないまちです。実際に起こるかどうかわからない、何も起こらなければ防府市の発展というような次世代にとって重要なテーマを傍らに置きつつということもありますので大変悩みました。

最終的には、市庁舎の整備に合わせて、長期的なまちづくりを展望するという方向で委員会としての意見集約に至ったと理解しております。

○鷗教授

引き続きまして委員会で議論していただきました青木さんをお願いしたいと思っております。

○青木氏

私も懇話会から参加させていただいております。私も山野さんがおっしゃった意見とほぼ一緒のことをいつも申してまいりました。

現庁舎で別に不自由を感じていないということや、今の場所であれば駐車場の確保も簡単であり、幹線道路のアクセスも良く、近くには、ソラールや郷土資料館などもあるからです。

一方で、まちの活性化であるとか、駅北の開発について夢のあるお話を聞くにつれ、駅北でも良いのかなという考えももちろん持ちました。

計画書を読んで、まちづくりの将来のイメージが少し湧きつつある状態です。今お越しの先生方に、市庁舎がまちの活性化に実際寄与するのか、どのようにすれば防府市が活性化するのか具体的に聞いてみたいなど今日は思っています。

○鷗教授

中井教授、中出教授にはまた後ほどコメントをいただきたいと思っております。いまお三方にお話を伺いましたが、実際に委員会の中で防災性であるとか駐車場についてはかなり白熱した議論がありました。その中で、防府市の今後の大きな方向性を理解するというところで、先ほど喜多村さんが言われましたように、中心市街地を今まで議論してきた思いであるとか、総合計画、中心市街地活性化基本計画、そういったものをベースにしながら少し長期的なまちづくりを展望しようということが非常に重要であるというコンセンサスが得られたように思います。

このような中で、庁舎の建替えというのはひとつのまちづくりの突破口とい

いますか、ひとつの大きな契機にしていけるというような認識が得られたように委員長として思っております。そうすると、先ほど冒頭に事務局から説明がございましたが、防府市としてはまちづくりの中で変化を選択したというキーワードがございましたけれど、変化を選択するということにもなると思います。

ここで、松浦市長にご発言をお願いしたいと思いますけれども、まちづくりの中で、今回市庁舎を駅北エリアに移転という変化を委員会としては提示しようということになっているわけですが、これを市長としてどのように受け止められておられるのか、また、「駅北公有地エリア」が選定されたことの意味合いについて、どのように感じられておられるかそのあたりのご意見を伺いたいと思います。

○松浦市長

まずもってたくさんの方々にご関心を抱いていただき、まちづくりについて考えていただく会を頂戴しましたことに感謝を申し上げます。先ほどからお話がございますように、鉄道高架事業を防府市は旧国鉄時代における最後の国鉄の仕事として認可を受け、巨額の投資をしてまいりました。これによって随分他の事業が遅れに遅れて様々な面で市民の多くの皆様方に不自由をおかけすると同時に、財政も非常に逼迫して大変な状況であった平成10年に私は市長に就任を致したわけがございます。その巨額な投資、およそ簡単にひと口で言ってしまえば500億円ぐらいを駅周辺に高架事業と、それから南北の再開発、区画整理事業等々で費やしていき、たくさんの人的エネルギーも投入してきたわけがございます。いろいろな方法でまちづくりというものは考えていくべきことであると思っております。1100年動かない防府天満宮、またおよそ110年動かない防府駅、もちろん港もあるわけがございますが、この動かざるものを中心としているいろいろなことを考えていくことが最も大切なことではいかと、私はそう思っております。

庁舎といっても簡単にできるわけではございませんので、平成10年の市長就任と同時に貯金をしていくことをまずは議会にお諮りをしました。そうしてきたわけで、そのことについては冒頭でごあいさつをしておりますので重複を避けませんが、市政進展ということは、私は2つの角度から見ていく必要があると思っております。ひとつは、教育、あるいは、高齢化社会の中での市民福祉の向上、いまひとつはまちづくり、活性化というものでありまして、このまちづくりといえますのは、もう永遠の課題であるこのようにさえ思っております。

ましてや、100億円前後の投資を必要とする市役所というものを考えるときに、最大限のエネルギーを使ってその位置の選定、あるいはそのあるべき姿等々について考えていくことは何よりも大切なことであろうと思っております。そういう大前提の中で、これから防府が投資をしていく、あるいは30年、50年、60年先に責任の持てる防府市を築いていくうえにおいて、今般市役所を建設す

るのであるならば、なんとしても中心地にもってくる、回帰させていく、そうすることによってコンパクトシティの一助になると同時に、先人の30～40年間に亘って積み上げられてこられた様々なご努力にお応えをしていける道ではないかと、そのように私は考えているところでございます。

○鷗教授

いくつか市長の考え方が提示されたと思います。前半の概要の説明、二つの講演、委員のみなさんのご意見を尋ねしたところで、会場の皆さんからここで質問をお受けしたいと思います。

○司会者

はい、それでは、ご質問のある方は挙手をお願いいたします。

○質問者1

市役所の移転を駅北エリアにするということに、まあびっくりしたのですけれどね、現在のところは防府市は中央集権的な形で、市役所の用件は市役所の本庁に来なければできないということでもありますので、どうしても車で来ることになるのです。そうなった場合、駅北エリアについては、非常に狭い場所でもあるし、道路幅も十分ではありません。そういったことで必ず交通渋滞が起きる恐れがあります。ましてや、地方自治法には国や県との調整も必要ですけれども、車塚から狭いというので寿町の方へ移転したわけにありますから、それに基づいた道路状況はつくってみんな分かりやすくなってるのですね。それから、田舎町ですから鉄道といえば大道駅と富海駅しかありません。すごく離れています。バスも十分ではありません。だからこそ田舎者はみんな車を持っているのです。だから車で来なければどうしようもない。そういったことがひとつのネックです。ましてや皆さん検討されたとおっしゃいますけれども、どこの市役所を見ていらっしゃるのか私には分かりませんが、駅北エリアにはパチンコ屋があります。飲み屋があるのです。そんなところに市役所をもっていったところは山口県内にありますか。私はないと思っておりますので絶対に反対でございます。

○鷗教授

今いくつかご指摘がありました。ひとつは車で市役所にアプローチすることになると、道路体系が対応できていないのではないかとということと、もうひとつは駐車場といった問題があるということが一点。長岡で同じような取組をされておりますので中出教授からコメントをいただきたいと思いますが、交通体系の問題があるのではないかとのご指摘と、駅の周辺のいわゆる環境問題といていいのですかね、パチンコ屋であるとか、飲み屋街があるということが出てきましたけれども、こういったことと市役所が相反する環境ということにならない

か、というようなことで反対であるというご指摘ですけれども、中出教授、まずこの駐車場、交通体系の問題については、先ほど中出教授の講演の中で、長岡の場合も駐車場がほとんど整備されなかったということと、もうひとつは、これは講演の中ではなかったのですが、交通体系の対応についての議論はその時ございましたでしょうか。

○中出教授

長岡も多分自家用車を使う人は防府よりももっと多いと思います。雪国ですので、300m歩かない人ばかりですので。ですけれども、私ももうあと数日で還暦ですが、65、70歳になったら車を運転できなくなるとすると、車を運転できなくなる人、あるいは18歳未満の人は当たり前ですけれども、こういう公共交通しか使えない人のことを考えて公共交通、恐らくバスしかないのですけれども、基本的には、そういうことを考えて公共交通は少なくともちゃんと維持するということがひとつあります。

それから、自家用車で来るというのを駄目と言っているわけではないけれど、自家用車に関しては、先ほどお示した市営の駐車場は4箇所と、民営はもう山のようにあります。それを安くすること。あるいは、最初の一時間は市役所利用者は無料にする、民間の業者さんにはその分どこかでお金を払うといった形にするとともに、少なくとも市営の駐車場4箇所に関しては、駐車場の案内システムを作って市の地下の駐車場、そこが一番便利とも限らないのですけれども、どこが満員です、どこが空いていますといったことをして、市役所が開いてこの4月で丸4年になりますが、少なくとも駐車場が使いにくいからといって不満を言う市民の方は非常に少数でおさまっています。道路体系をいじっているわけではないので、ソフトの対応でなんとかしているということ。

それから、なんといっても防府もバスは、本数は分かりませんが、全部バスは駅に来るのだと思うのですよね。そういう意味で言うと、長岡の場合は、前の長岡の市役所は一度長岡の駅に来て、そこからもう一度バスに乗らなければいけなかったのが、一度で用が足りるということになったので、少なくともバスを使う方からはものすごく便利になったと言っています。私も30分離れた大学に勤めており、ほとんど公共交通を使いますので、公共交通を使う身としては、市役所がそこにあることで助かっている状況です。

○鷗教授

多分ですね、今回パブリックコメントを募集している計画案は、それだけで全てを補っているような計画ではなくて、かなり中長期的なビジョンを示したところであって、各方面の各分野別計画が連動して動かないと達成されないような計画となっています。

ひとつは、公共交通網をどういうふうに充実させていくかという計画を別途作

らないと今の計画というのは多分実現できないと思いますし、駐車場をどうしていくかということも、長岡の事例では、民間の駐車場も巻き込んで連携させるという話がありましたけれども、そういうこともこれから計画を作っていくと、今のパブリックコメントに出ている計画案というのは実現できません。

ですから、関連計画をしっかりと充実したものにすることが前提で、いまビジョンをこの計画案に示しているということになろうと思います。ですから、これが今このまますぐ実現できるかということ、これはかなり難しい話で、もしこれにコンセンサスが得られれば、関連計画を充実させていくということも並行してやっていく必要があるのかなと私は思っております。

そしてもうひとつ、環境問題でご指摘がありましたけれども、喜多村さんにお尋ねしたいのですが、商業関係の話も関連してくると思うのですが、中心市街地と言うと、どうしてもいろいろな用途の建物、商業活動、いろいろなものがあって、でも公共交通は充実しているし、先人たちのいろいろな考え方がまちづくりに対してある、そこに市役所をもってくるといろいろな環境、風紀の問題との整合性も果たさなければいけないのではないかとのご指摘だったと思うのですが、それに対して何かコメントがありますでしょうか。

○喜多村氏

まず、市役所というのは単なる行政の事務所ではないと思います。先生方からご講演があったようにいろいろな役割を果たすところであろうということと、これからのまちづくりはやはり長期的な視野で考えなければいけないということになりますと防府の中心市街地といいますか、まちというのはどういうものになるのか、少子高齢化ということで人口が減少していくという、かつて経験したことのない環境下になった中で、まちづくりはどういうふうになるかということになると、いわゆるコンパクトシティと言いますか、既に行政的な投資がある程度終わったまちなかへ投資していくしかやりにくくなってきているのではないかと私どもはずっと言い続けていますし、そうだと思います。誰がどこに住むかというのは、それぞれの方がお決めになることだろうと思いますけれども。効率的な行政の運営という観点から言っても、中心市街地にいろいろな機能、居住、医療、教育など様々なものをもってくる、そこに市庁舎を移すということは本当に何十年に一度のことだと思います。だから、そういったいろいろなことを中長期的に考えると、やはり私は今後のまちづくりは、中心市街地に市役所をもってくることによって防府の更なる発展ができるのではないかと。

環境の問題というと、確かにこれはいろいろなことがあるだろうと思いますけれども、やはり民間の意識、あるいはいろいろな人たちの意識の中で当然それらしいまちをつくっていくという意欲に私は大いなる期待をしておりますので、乗り越えていかななくてはならない課題ではないかと思っております。

○鷗教授

時間の都合もありますので、先に進めさせていただきまして、最後にもう一度、質問時間を設けたいと思います。

それでは、次のテーマに移りたいと思います。

テーマ2：防府生活都心の創造とそのイメージ

○鷗教授

A3資料の項目6～8をご覧ください。「防府生活都心」というキーワードが出ています。「防府生活都心」というアクションイメージをこの計画（案）では出しているわけですが、この計画書の中にも書いてありますが、今後防府市が集約型都市づくり、コンパクトシティを考えていく上で、都市核部分の主体になっていくと思います。「防府生活都心」と、実現に向けたアクションイメージについて松浦市長から何かコメントがあればお願いします。

○市長

様々な都市経営の課題を解決していく時に、県や国と協議を進めていくわけですが、そうした時に私どもとしては資料の2ページに赤の線で示されているエリアが中心ですよ、ということをお伝えしながらいろいろな計画を立案し、実現をし、そこに人的な投資も、お金の面でもずいぶんと入れてきたわけですので、私はこういうものが今までもお示しをさせていただいてきている、その中心にしっかりした市役所を持つてくるというのは将来に対する責任のひとつではなかろうか、このように考えております。

○鷗教授

併せて、「防府生活都心」というアクションイメージですが、せっかくですから専門家の中井教授は、姫路のまちづくりであるとかそういったところに関わってこられて、少し広域的にもものを見ながら戦略的なポイントを絞ってどうするかというのを、ワークショップなんかも介して作ってこられたと思いますけれども、まず「防府生活都心」というアクションイメージについてご感想をお願いします。

○中井教授

全国的にコンパクトシティと言われていることの大きな理由の一つは、高齢者が生活しやすいとか、公共交通のこともありますが、これまで都市の中に投資を、公共投資が中心になってされてきて、それがどうすれば一番効果を発揮できるかということが大きいと思います。

その意味では投資の効果、ストック効果というのは、お金をどれだけつぎ

込んだかだけではなくて、例えば歴史的な積み重ねがどれぐらいあるかとか、どういう用途がどういう分布をしていて、どういう連携がされているか、いわゆる社会資本のストック効果と言われているものが一番大きくなるようなことが、都市の構造としても求められているということではないかと思えます。

その意味では中心市街地はどこでもかつては地域の文化や産業を経済に転換する場所だったわけですから、そこにはそれなりのストックが積み重なってきているはずであって、例えば古い街道ですと街道のまわりには街道を作り上げてきた文化というものがありますし、ここには駅があるということで行くと、あとどういう所を強化していくかということが非常に大事で、もちろん庁舎のような公共サービスもそうなのですが、例えば住宅をここに誘導していったり、医療や福祉の機能もストックの効果の高いところに引き寄せていくかということでは、必ずしも行政サービスだけではなくて、医療福祉などは大部分は民間投資によるものですし、住宅もほとんど民間によって作られるので、民間の投資をどう呼び込んでくるかというのが戦略的に非常に大事だと思います。

○鷗教授

中心市街地というのは、経済を転換していくような、強化する、そういったことを特化するような場所であって、民間の経済活動がどんどん入ってくるような、そういう位置づけを明確化していく、または特化していく、そういったことが必要ではないかというようなご指摘だったと思います。

○会場から「発言させてもらえないでしょうか」の発言あり。他の来場者からも発言あり。

○鷗教授

まずは壇上の方から意見をいただいて、その後に皆さんからの意見をいただく予定にしておりますので、この進行を私に任せていただけないでしょうか。（拍手あり）

○会場から「市役所は誰のものかい！」という発言等あり。

テーマ3：事業計画（A案・B案・B'案）

○鷗教授

資料9と10について事務局から説明いただきましたが、ここがポイントと

言いますか、建設用地の位置と形の問題が出てきていまして、設計の制約条件ということになってきます。ここでは、A案、B案、B'案を提示し、計画としてはB案による事業計画を基本としながらB'案を展望するというということになっております。これについては松浦市長、青木さん、山野さんにご意見を伺いたいと思います。では松浦市長から順番にお願いします。

○松浦市長

先ほども申しましたが、まちづくりは永遠の課題であると思っておりますので、あらゆる可能性を念頭に入れ、現実を直視しながら責任あるまちづくりをしていくことがいま生きている私たちに大切なことであるという考え方からいきますと、B案やB'案は十分これに答えていけるものであると私は思っております。

○青木氏

9と10の私の意見ということでもいいですか。

○鶴教授

それも含めて全体でもいいですよ。

○青木氏

いま私の中では、現在地が良いのか駅北が良いのかははっきり意見としては持っておりません。ただ、駅北になるとしてこの中で言うと、建物を分散させるのではなく、B案できっちりと市民が使いやすい市役所にして欲しいことと、意見もありましたけれども駐車場。防府市民は車ありきの生活に慣れておりますので、いずれ車がない社会が来るにしても今現在は必要なものだと思うので、駐車場の確保というのは私の中では大事なポイントとなっております。

○山野氏

私も先ほど申しましたように、現在地か駅北かというところ、本当に悩んでいるところです。ただ、最終的にはどちらかに決めなければいけないことなので、そういった場合は何が一番優先されるかということと市民の利便性であると考えます。その中でも、市民アンケートにもありましたように駐車場の問題。防府はやはり車社会なのでそういった利便性も考えていただきたいという思いは持っております。また、商工会議所の喜多村さんもいらっしゃいますので、民間活力の導入という意味ではB'案ということも大事ではないかと。公共のみの使用ではまちが活性化するのかなというような考えもあります。

○喜多村氏

駅北公有地エリアにどうつくるかというのは、細かいことになるとなかなか難しいことがいっぱいあるだろうと思いますけれども、私はA案、B案、B'案の中ではB'案が一番良いだろうと思います。やはり民間の知恵、民間の活力こういったものに大いに期待をしているわけですし、限られた最小のコストで最適なものを、しかも中期的な展望に立ってやっていくということだろうと思います。

駅北公有地は分かれていますので、このままでは難しいところもあります。土地の取得ということも考えなければいけません。検討委員会の中でも土地の取得費用という議論がたくさんありました。私はこれから中長期的に本当に必要と思われる土地を取得するのはある意味コストかも知れませんが、コストではなくて将来防府の資産になってくる、このエリアを輝くものにしていくために必要なものではないかと思っております。

夢と希望を託すというのでは大雑把かもしれませんが、やはり我々はそこに託していくしかないのではないかと考えております。

○鷗教授

ひと通りご登壇いただいた皆さんの意見を伺いました。それでは、質問時間としたいと思います。時間に限りがありますので、全ての質問にはお答えできないとは思っています。パブリックコメントを実施しておりますし、冒頭に市から説明があったとおり、庁舎建設室へお尋ねになるということで対応をお願いしたいと思います。

○質問者2

お聞きしたいことはたくさんありますが、検討委員会の今までの進め方等について、少し質問させていただきたいと思います。もうひとつは、今まで語られていない視点での意見を言わせていただきたいと思います。駐車場の問題も出ました、まちづくりの問題も出ましたが、防災拠点としての庁舎があります。

市は、一昨年11月に市民にアンケートを実施しました。来庁者へのアンケートと郵送によるアンケートを実施しましたが、このアンケート結果で、何を重視するかという質問で1番に挙げたのは、いま庁舎が分かれていますので、わかりやすい窓口、窓口を延長して欲しいというものでした。これは、現庁舎跡地でも駅北エリアでもできることであります。ただ、防災拠点としての庁舎という点については、5割の人が希望しているわけです。このアンケートが実施されたのは熊本地震が起きる前でさえあったわけです。防府市民は水害を経験しております。この記憶もまだ新しいことだろうと思います。5割の人は防

災拠点としての庁舎を強く望んだわけです。まちづくりに寄与してほしいという意見は2割程度です。比較すると、半分にも満たない結果であったと思います。また、どういう場所に作って欲しいかという質問については、駐車場をしっかりとって欲しい、確かに、8割の人は庁舎に車で来ているわけです。この状況の中で駐車場は非常に重要な問題です。そして次に注目すべきことは、可能な限り経費を抑えて庁舎をつくってもらいたい、これが3番です。次に26%がまちづくりに寄与する庁舎をつくってほしい。これが庁舎に対して示した初めて市民が明らかにしたアンケート結果なのです。ただ、このアンケート結果を受けてから庁舎の候補地が絞り込まれましたが、市民に対する情報はほとんど開示されていません。検討委員会が5月に方向を決めたかと思いますが、それまでほとんど情報が市民に提供されていません。先ほど聞いていまして…（聞き取り不能）というような次元の方もあります。

それと、防府市は公共施設をこれからかなり補修、修復をしなければいけない時期に入ってきます。この予算もばかにならないと思います。私はまちづくりというものも大切だと思います。だけど先ほどから5年先を見て、将来の防府をと多く語られていますが、私たち高齢者は介護や年金の問題で防府を担う若い世代にそれだけでも負担を負わせているわけです。それに加えて財政上の負担を改めて負わせる必要があるのでしょうか。私は間違っていないと思いますが、あえて3万㎡ある土地を有効に活用して庁舎をつくることはできないのでしょうか。言葉はあえてだと思えます。

もう一点、防災拠点として、確かに現在地は土砂災害警戒区域は抱えておりますが、駅北エリアでは佐波川浸水の危険を抱えております。ただ、防災拠点としての機能は庁舎だけではありません。その周辺機能。道路を隔てた警察、災害が起きたときの治安の問題、また、勝手な意見かもしれませんが、個人病院ではなくて防府消化器病センターという大きな病院もあります。もうひとつ皆様の気づかれない大きなことがあります。庁舎の上には2万8千㎡を誇る防府市文化財団の防府市青少年科学館があります。ここの敷地面積は2万8千㎡あります。そして7台の大型バスが駐車できます。これは県下一の防災拠点だと思います、これを失ってまで防府の若い方に、いまから厳しい時代を迎えらる中で新しい負担をあえてかぶせることはどうかなと思います。

○鷗教授

これは松浦市長に回答いただければと思いますが、市民のアンケートに関して、防災拠点の位置づけというのが非常にニーズとしてあったこと、駐車場の台数についての要求も非常に上位であった。それとこれからの時代、経費のことをどう考えていくかというこの大きな3本を考慮した結果、駅北エリアは考えにくいのではないかとご指摘だと思うのですが。松浦市長、防災、駐車場、経費そういったことについてコメントをお願いします。

○松浦市長

私が市長に就任した際に消防の本庁舎が市役所の5号館にありましたが、一度の地震でやられてしまうという恐れを感じました。そこで消防庁舎の建設に着手いたしました。用地はご存知のとおり交通の要衝の角地であります。万が一地震発生の際には私どもは消防庁舎が防災の本部になるということで、すでに幾度となく訓練も実施しておりますし、先般も職員が自宅から消防本部まで徒歩等で何分で来られるかを行っております。

そのようなことから防災拠点としての庁舎の重要性、必要性というものは常に頭の中にございます。また、駐車場、あるいは経費を抑えてほかに使うべきであるとか様々なご意見があることはよく理解しておりますが、それでも将来のことを考えたときに防府市は乗り越えていかななくてはならない道である、また、乗り越えられないことはない。

今日まで30億円を越える金額の貯金をしていくことができました。貯金をするときでも、反対をされる方は反対をされました。平成11年の3月議会は否決され、平成13年の3月議会でようやく承認を得てきて貯金もしてきているわけです。したがって、私は様々なご意見がごありだと思いますが、乗り越えていけない課題は何ひとつない、このように断言できると思っております。

市民の皆さまのご協力とご英断を期待しているところであります。

○鷗教授

駅北公有地の計画は少し考えにくいという質問が2件続けてありましたので、今度は駅北公有地の考え方は的を射ているのではないかというようなご意見の質問等がございましたらお願いしたいと思います。

○質問者3

まずは属性を簡単に紹介させていただくと、私は、防府市内在住です。子どもがふたり幼稚園に通っておりまして、70歳を超えるくらいの両親がそれぞれ市内に住んでいる、そういう視点から本日のいろいろな説明を聞きまして意見を説明させていただけたらと思います。

まず、新庁舎とまちづくりとはということですが、特に商工会議所の方等は思い入れがあると思うのですが、中心市街地活性化のためだけでなく、これを考えるうえでは今の市民だけでなく、これからの市民も含め、このまちで暮らし続けていくための今後50年、人口減少社会を見据えたまち全体のありかた、また防府市民の暮らし方を決めるものなのだと認識して本日こちらに参加させていただいております。そうした視点で捉えたときに、防府市では、人口ビジョンや総合戦略等あげられていますが、今後人口3割減るよ、8万人の社会に50年後なるよ、そうした中でどうやって機能維持をしていくかそういう方向がすでに示されていると思います。そうした中で様々、交通計画、雇用の創出、

流出人口の抑制であつたりがあげられている。この解決の手段というのがまちの中心、核にとにかく機能を集約させて、ある程度人が減ってもいろいろな形で機能を維持していけるこのまちで暮らしていけるための形を残す。その使命が今回の新庁舎の移転なのだと思います。いろいろ話を聞いていますと、まちづくりというのはこの中心市街地だけをどうするかという小さい視点に見えてしまうので、もっと大きな視点を持たなければいけないのではないかといいことでひとこと言わせていただきます。

例えば交通計画、駐車場が大事、どういう形で人が行くのかそういういろいろな意見もあろうかと思うのですが、やはり今免許更新も非常に厳しくなっておりますが、今後70歳、75歳の方がいつまでも車に乗れる社会が維持できるかという多分難しくなっていくだろう。そういったときにはやはり公共交通が必要になってくるでしょうし、その時に特に考えていただきたいのが、市の職員の皆さん500人くらいが毎日行き来していると思うのですが、例えば、基本的に自家用車での通勤を禁止して公共交通機関での通勤を検討していただく。そうすればいままでなかったバス路線が開拓されるかもしれないですし、そこを基点として今日は歩いて商店街に寄って帰ろう、居酒屋に寄って帰ろう、お昼は近くで食べようといった発想が生まれてくる。そういう視点を持っていただきたい。

また、雇用の創出ということで言うと、新山口駅周辺に新しいコンベンションセンター等ができてきていますけど、そういったものが防府市の中心にできてきたとすれば、新しい企業がくる、新しい営業支店を持てる、競争力が増す、そこに雇用が生まれるのではないかと。防府市は特性としていままで自動車産業を中心に、工業が中心だと思っておりますが、新たなサービス産業が中心になってくる可能性もある。例えば私のような県外の大学を出て戻ってきたときに働く場がない、そうした者がビジネス拠点、働く場があれば帰ってこようかということになるでしょうし、防府市に住もうかという形にもなってくる。

そういった核というのが新庁舎の移転でしょうし、本来のまちづくりという視点だと思いますので、そういった視点で委員の皆さんには検討を続けていていただきたいなと思います。

○鷗教授

市の総合計画から人口ビジョン、交通計画など実際に今走っている計画を少し俯瞰しながら、まちづくりというものをもう少しマクロに見ながらその中で市役所をどのように考えていくか、そういう視点が実際必要ではないかというご指摘だと思います。まちづくりのことで喜多村さんが冒頭でご指摘されていましてのでコメントがあればお願いします。

○喜多村氏

駐車場の問題も含め、まちづくりについては検討委員会の中でもいろいろな意見が出ました。確かに目の前の現実だとそれは問題だなと思いますが、少し先の社会を予測してみたときに、人口減少はもとよりいろいろなことが出てくると思っています。

今ほどの車社会になるのかどうか、民間の活力、民間の知恵、民間のビジネスそういったものがうまくいけば税収という形でプラスアルファがでてきたり、コンパクトシティについてもそうですが、その地域が価値あるものになれば固定資産税が上がる、税収が増える、そういう良い循環。今までは目の前で想像できなかったような30年後、40年後を目指さないことには、私はどうなのかなという思いがします。

絵空事なのかもしれませんが、将来に希望を託す、民間の意欲、ビジネス、そういうものは決して小さいものではないと思いますので、我々が防府の将来に対して明確なビジョンがあれば必ずついてくる人がいる、我々の意識が変わる。例えば駐車場の問題も、さっと車が入れば一番良いのだろうと思いますけれども、物は考えようで、駐車場に置いて少し魅力のあるまちを歩いていく、そこでお店に入ってお金を遣うとかそういう時代へ日本は変わっていくのではないかと思いますし、防府もそうなるのではないかという気がしています。

○鷗教授

時間の都合もありますので、最後の質問にさせていただきたいと思います。

○質問者4

地方のことを考える前に国のことを考えたら、国の財政ってどうなっているか、国の財政は赤字財政、赤字財政ということはどういうことか。地方交付税を山口県も防府市ももらっているが、地方交付税が減るっていうことがある。高齢化社会が進むということは、要するに労働人口が減るということ。高齢者が多いと所得が減る。所得が減るということは市税が減るということ・・・地方交付税が減るということに関して、いま、臨時財政対策債というものを使っている。平成12年ぐらいから、8億円、12億～と財政にそれだけの負担がかかっている。これがいつ切られるかわからない。ということは財政がいつ逆転するかわからない。そうすると市民税が増える可能性が増える。経常収支比率も92%だが、実際、臨時財政対策債がなくなった場合には100%を超す。ということは歳入で歳出ができないということになる。いずれそうなったときのことを考えれば地方自治体はどうすればいいか。金を儲けるような地方自治体じゃないとだめ。企業的な地方自治体。箱ものを真ん中に立てるのではなくて、何かそこで大きなイベントができる。そして、集客はJRがある、防府市民を喜ばせるだけじゃだめ、収入がない。外需を大事しないといけない。外からもってくるには一番大事なのがJ

R。JRの前にイベント会場があると一番いい。

○鷗教授

財政についてのご指摘だと理解してもよろしいですか。時間が限られておりますのでご協力をお願いします。松浦市長、財政に関することについて。

○松浦市長

国も地方も大変な状況です。10年前も20年前もそうですし、10年先も20年先もそうだろうと私は思っております。

だからこそ、貯金もして、少しでも将来に負担をかける率を減らしていくように努力をしているわけでありまして、防府市の場合、他の自治体に比べれば市民のご理解のなかで進めてきた行政経営改革の成果があがってきておりますので、良い財政状況に現在はおかれています。

良い時に次の備えをしっかりとしていく足場を築いていかないといけないのではないかと考えております。

○鷗教授

6時20分まで延びてしまいました。

冒頭も申し上げましたように、今、パブリックコメントを募集しています。それと、冒頭事務局が説明したように、各地区で説明会を行います。

これは「計画(案)」です。ですから当然まだパブリックコメントであるとか、地元のご意見を聞きながら、また、計画というのは当然「計画」ですので、いろいろな形があろうかと思えます。

案が提示されましたが、これは決定ではありませんので、ぜひこれは大きな変化を計画として記述しているわけですので、大きな議論を進めていかないと、後々なかなか難しい問題に発展していくということですので、ここで質問を受けられなかった時間もございましたけど、ぜひパブリックコメント等でご意見を賜りたいと思っております。是非ご協力をお願いしたいと思えます。

それでは今日ご登壇いただきました皆さまには進行にご協力いただきまして、また、会場の皆さまにはいろいろ不手際ございましたけれどもご了承いただきたいと思えます。

ありがとうございました。